

海外邦人に健康相談

香川大医学部、タイと結び

テレビ電話で患者と対面

みながら将来的には相談の拡大なども検討したい。海外在住の日本人の役に立てば」と意気込んでいる。

同大などによると、チェンマイは物価が安いうえ、治安がよいことから退職後に移住する邦人が多く、チェンマイ市と周辺9県に約3千人の邦人が住んでいるという。しかし、現地には日本語通訳のいる病院はあっても日本人医師はおらず、移住者のなかには高齢のため健康面に不安がある人は少なくないという。

香川大は地元のチェンマイ大学と交流があり、現地の日本人団体、C.L.L.クラブとも提携して、インターネットのテレビ電話で患者と対面しながら健康相談に乗り出すことを決めた。当面は毎月第1、3金曜の2回、大学病院の内科医3人が相談に応じる。

これまでの試験運用では、相談者の病気を発見したケースがあったほか、処方された薬が日本でも一般的に使用されているものなのかなどの相談があったという。

C.L.L.クラブの田口幸秋さん(69)は「日本語で直接医師に相談できることで大きな安心感がある。世界各地でこうしたサービスが広がれば」と話す。

香川大学医学部(香川県三木町)はタイ北部の中心都市・チェンマイに在住する日本人を対象に、インターネットのテレビ電話を利用した無料健康相談を3日から始める。海外在留者にネット上で健康相談を行う取り組みは全国的にも珍しいという。同大医学部の徳田雅明教授は「利用状況を



テレビ電話による健康相談の試験運用で、日本人医師に
対面相談するチェンマイの邦人—香川大学医学部